

和歌：文苑

著者	不老庵主人，溪川，學人，巴城生，下山，陸治，龍南生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	32
ページ	42-43
発行年	1894-12-21
URL	http://hdl.handle.net/2298/4502

如吾兄作者未多見也可敬

聞旅順口占領喜賦 水月 哲英

休道小邦事遠征。生民舉足總爲兵。海沈敵

艦山摧壘。行見北京城下盟。

次秋月先生見寄芳韻以贈

杉山 富樫

不用行軍說不平。誰知逆境快心生。旬餘已

歷前肥地。到處歡迎天亦晴。

聞占領旅順口喜賦

百萬健兒衝鉄嶺。艦艘蹴浪壓邊城。戰塵四

塞聲彌激。殺氣縱橫勇更生。天塹由來好形

勢。關山旬日聚精兵。快哉一舉塞頑奴。博得

無雙蓋世名。

思征夫

飯田 突元

今夜征人何處在。空閨月暗思纏綿。孩兒不

識阿嬈恨。襖襟懷中哺乳眠。

人未道及

觀密柑於河內村

佳香清味比倫無。河內柑袖天下殊。誰料來

村好山水。滿眸無處不金珠。

實況

冬夜讀書

半夜添爐鎖草廬。剪燈閑讀古人書。時聞淅

瀝來打戶。急霰斜風捲敗櫚。

一讀凄然

臘月六日

稼堂迂生妄批

琴の海竹嶋のわたりを過ぎてよめ

不老庵主人

竹嶋にまける常盤の松か技に

八重の沙路の波の花さく

筑前國生松原を過ぎて

大君の御代にひうれて幾千代も

榮へ行くらん生の松原

田家秋

夕されは吹く朝風に千町田の

稻葉そよきて秋は來よけり

親しき友に別るゝ時よめる

溪川 學人

別れ路に泣くろ女々しきいさや汝か

さうつきとれよ我うたひあん

百貫沖にてよめる 巴城生

海の上に見ゆる火影もきえゆきて

空にのこれる月のさむけさ

多良山を望みてよめる

高峯ろと思ひし空の雲はれて

見ゆるは多良のふもととなりけり

襟畔にてよめる

めぐりきてまたも名高き耶馬溪の

秋のけしきをこゝよ見るかか

早岐の瀬戸にてよめる

筑紫の早岐のせとのせまければ

海ども江ども分れさりけり

日宇の山路より西の海を望みてよ

める

見渡せば沖の嶋々かくろひて

空うちかすむ西のにしまた

旅順口の占領をきゝ皇軍の連戦連

勝を祝ひて

下山 陸治

太刀風にむかふものさき大みいつ

よろつ世までも祝ひうたはむ

今は早まもらむすへもあら風に

この葉ちりゆくまこのやつはら

折にふれて

龍 南生

もろこしの草うち拂ふ太刀風に

西のうらわの波さへろたつ

旅順戦畢將士會宴各相抱無言而涙

先下今國歌以言其情

相見つゝ夢かどはかりおもはれて

語り出つへき言の葉もあし

